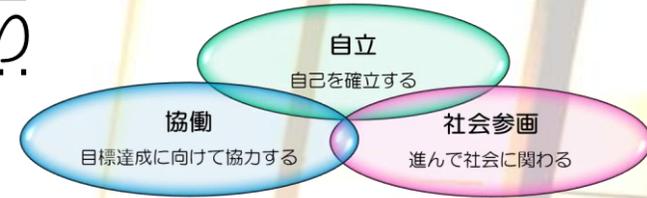


# 第2回委員会の主な検討内容（武蔵野市民科の目標）

社会の変化や課題に対し、他者と協働し、主体的に取り組むことを  
とおして、よりよい地域、社会づくりに参画し、幸福な人生の創り  
手となるための資質・能力（市民性）を育てる。

<市民性を構成するキーワード>



～学習過程の部分～

- ①社会の変化に対して取り組むというのは言葉として違和感がある。
- ②市民科では、社会変化や新しく出てくる社会課題だけでなく、人間として普遍的な課題も取り上げるべきではないか。そう考えると冒頭を「社会」という言葉でくくるのがよいのか。
- ③社会の変化や課題に最初から絞るのではなく、子どもが自分で課題を見つけたり、考えたりする中で、社会の変化や課題に気付くこともある。
- ④課題に対して取り組むだけでよいのか。解決まで求めるか。考えるきっかけをもてばよいのか。

～育成を目指す資質・能力の部分～

- ①「幸福な人生の創り手」というのは、自分のことのみを表すのか、社会全体と捉えるのか。
- ②「協働」と「社会参画」は言葉として入っているが、「自立」は「主体的」や「幸福な人生の創り手」という中に包含してよいのか。（第2回で出てきた意見...幸福は自分でつかみ取るもので、自己を見つめ、みんなの役に立つことが幸福である、他者の中に自分の居場所があることを感じる事ができるのが幸福ではないか）